

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

1月27日

NO、19

書く力

今年度の学校の研究教科は「国語」です。「きょうか」と打ったところ「教科」ではなく「強化」と変換されました。正に「国語力」の強化を狙って1年間研究を進めています。

「一に国語、二に国語、三、四がなくて、五に算数」と言ってはばからないのが、数学者の藤原正彦氏です。「国家の品格」の著者と書けば、お分かりになるかもしれん。

実は、小学校の算数が変わっています。

算数の問題なのに、国語？と思うような問題が増えています。具体的には、

「考え方を説明しなさい。」

「求め方を考えましょう。」

「そうなるわけを言いなさい」

手元にある教科書をめくり、抜き出しました。

今や計算ができればいい。計算の答えが出れば点数が取れる。そんな時代ではありません。問題に正対した文章が書けなければ、高得点は狙えません。書く力が重視されています。

題意を読み取る力が必要になります。当たり前ですが、問いかけの文が違うので、答え方や文章の書き方は異なります。

「考え方を説明しなさい」という問いには、最初にその考えの基本となる方法を書く必要があります。平均を使う問題ならば「平均＝合計÷個数」という考え方を書かないといけません。

「求め方を考えましょう」という問いには、解く順序をはっきりと書く必要があります。「最初に、次に、最後に」「まず、次に、だから」など順番を表す言葉を使い書きます。

「そうなるわけを言いなさい」という問いには、利用している定理を書きます。「正多角形を選びなさい」という5年生の問題があります。この場合は「正多角形とは、辺の長さが全て等しく、角も全て等しい多角形です。」と書かないと問いに正対した解答にはなりません。

読解力をつけるには、文を読むしかありません。全国学力・学習状況調査の問題文には、かなりの長文も見受けられます。また、算数では、解くのに必要のない数字が入っている問題文もあります。

新聞に紙の出版物の売り上げが、ピーク時に比べて4割以下の水準になったという記事がありました。ますます「読む」機会が減少しそうです。子ども達の読書量の確保にご理解とご協力をお願いします。

